

氏名	相良翔	部署	社会福祉子ども学科	職名	准教授
研究分野	福祉社会学、犯罪社会学、医療社会学、司法福祉論				
学位	博士（社会学）				
学歴	2011年3月 上智大学大学院総合人間科学研究科 社会学専攻 博士前期課程 修了 2018年7月 中央大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程 修了				
経歴	2011年4月～2014年3月 更生保護施設 補導員				
所属学会（役職）	ヨーロッパ犯罪学会，日本社会学会，日本犯罪社会学会，福祉社会学会，日本社会病理学会，日本保健医療社会学会，関東社会学会，日本ソーシャルワーク学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	社会福祉士国家試験過去問解説集2023: 第32回-第34回完全解説+第30回-第31回問題&解答	共著	あり	中央法規出版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	2022年5月
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	テキストマイニングを用いた都道府県再犯防止推進計画の検討	共著	あり		実践政策学、8(2)、137-145	ブルースター デイビッド、向井 智哉、高橋 有紀、竹中 祐二、相良 翔、鈴木 政広、相澤 育郎
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	The provision of peer support by peer staff working in Offenders' Rehabilitation Facilities in Japan.	単独		Euro Crim 2022、Malaga	○Sho Sagara	2022年9月
2	協力雇用主の就労支援実践における労働と生活の境界	共同		日本社会学会第95回大会、大阪	○都島梨紗、相良翔、大江将貴	2022年11月
3	厳罰傾向の規定要因モデルの一般化可能性の検証——日本とコスタリカの比較——	共同		日本パーソナリティ心理学会第31回大会、沖縄	○向井智哉、ガルシア=ラミレス、ダニエル・松木祐馬、竹中祐二、相良翔、綿村英一郎	2022年12月
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	2022奨励研究報告書「ピアスタッフによる併存性障害がある薬物依存者へのサポートに関する福祉社会学的研究——IARSAにおける質的調査を通じた検討」	共著		オンライン	○相良翔、青木彩香、池田朋広、小松崎智恵、石橋康	2023年2月
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省: 科学研究費補助金（基盤研究C）			批判的犯罪学の観点をふまえた非行からの離脱過程に関する研究	研究分担者	2023年3月まで
2	文部科学省 科学研究費助成事業（若手研究）			更生保護施設に勤める支援専門職の役割形成の要因およびプロセスに関する質的研究	研究代表者	2023年3月まで
3	2022年度埼玉県立大学奨励研究（A研究）			ピアスタッフによる併存性障害がある薬物依存者へのサポートに関する福祉社会学的研究——IARSAにおける質的調査を通じた検討	研究代表者	2023年3月まで

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	医療と福祉の社会学	○	15	医療と福祉社会学における基礎的な理論や概念について講義し、批判的に検討するための基礎的な能力を養成した。 オリジナルテキストと動画資料も用意して、受講生が学習しやすい環境をつくることを心掛けた。 疑問や質問についても随時間き取り、講義に活かした。
2	現代社会と福祉	○	15	社会福祉学における中核的な理論や概念について発展的な講義を行い、現代社会における福祉的課題について論理的に考察する能力を養成した。 オリジナルテキストと動画資料も用意して、受講生が学習しやすい環境をつくることを心掛けた。 疑問や質問についてもリフレクションペーパーなどを通じて随時間き取り、講義に活かした
3	スタートアップセミナー		3	7月から講義を担当した。特にプレゼンテーションの方法を中心に、指導および助言した。
4	子ども若者支援論（大学院前期）		5	子ども若者支援に関する専門論文（非行・薬物依存・サバイバー）を基にディスカッションを行った。
5	社会的排除とソーシャルワーク（大学院後期）		4	社会的排除とハームリダクションに関する専門文献を基にディスカッションを行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク演習Ⅲ		15	グループワークに関する演習科目の担当者として関わった。 グループディスカッションやロールプレイに対して、適宜助言・指導を行った。
2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	○	15	コミュニティアプローチに関する科目責任者として関わった。 学生のグループ活動が円滑になるように、適宜助言・指導を行った。
3	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		15	実習経験をもとに学習をより深めるために、準備・運営した。
4	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		15	実習に必要な知識や技能の習得のため、授業準備や資料作成を行った。
5	社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ	○	15	犯罪・非行などの社会問題をテーマにした専門的な論文の輪読や社会調査に関する学習を進めた。
6	社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ	○	15	卒業論文の準備に関する報告についてディスカッションを行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ		学外実習：2023年2月～3月 学内実習：5コマ	オンラインにおける実習を準備・運営した。また、対面実習における指導も行った。
2	IPW実習		学内実習：15コマ	地域担当教員として、それぞれのグループでのオンライン実習が円滑に進むように環境整備や助言を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022年4月～11月	主指導	5 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	BLUECROSS MOVEMENT（非行少年の社会的自立支援のための運動）	実行委員	任期なし	
2	日本犯罪社会学会	本部事務局会計部常任理事（17期）	2023年11月まで	
3	日本社会病理学会	研究委員会理事	2022年10月まで	
4	日本社会病理学会	優秀報告賞選考委員会	2022年10月まで	
5	日本保健医療社会学会	編集委員会 査読委員	現在に至る	
6	青少年問題学会	編集委員会 理事	2024年3月まで	
7	犯罪・非行を研究する若手研究者ネットワーク	キャリア担当役員	2023年3月まで	
8	日本ソーシャルワーク学会	査読委員	現在に至る	
9	International Journal of Drug Policy	Reviewer	現在に至る	
10	関東社会学会	専門審査委員	現在に至る	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	埼玉新聞	川越少年刑務所において行われているユニット型処遇に関するコメント	2023年1月	
2	週刊 読書人	カーラ・パワー著『普通の若者がなぜテロリストになったのか』の書評	2023年1月	
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	学科等における委員会等	2年次学年担当	2023年3月末まで	
2	学科等における委員会等	高等教育開発センター所員	2023年3月末まで	
3	学科等における委員会等	倫理委員会委員	2023年3月末まで	
4	学科等における委員会等	ダイバーシティ推進委員会委員	2023年3月末まで	
5	学科等における委員会等	社会福祉専攻会議 担当	2023年3月末まで	
6	学科等における委員会等	社会福祉専門演習Ⅰ調整	2023年3月末まで	
7	学科等における委員会等	国家試験支援委員	2023年3月末まで	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			